



令和7年度 学校経営方針概要

世田谷区立上祖師谷中学校 校長 古川 恵樹

学校には、社会の在り方が劇的に変わる「Society5.0 時代」の到来及び「予測困難な時代」において、一人一人の生徒が、多様な人々と協働しながら様々な社会的变化を乗り越え、持続可能な社会の創り手となることが求められています。

さらに生成 AI が当たり前に使用されるようになり、身近な疑問等に、一見正しいと思われる回答がすぐに手に入ります。しかし、その情報が本当に正しいのか、それ以外にも正しいことはないのか、その情報を正しく活用できるのか、その情報に根拠はあるのか等、生徒たちは、今まで求められていた力と違う新たな力も身に付けなければならぬ状況になってきました。

また、社会の中に溢れかえっている様々な情報等を適切に得るための様々な機器等についても、正しく使用できるスキル及びリテラシーを身に付けることが必要となっています。

そんな現状を踏まえ、本校においても、改めて「令和の日本型学校教育」のねらいをしっかりと押さえるとともに、教員一人一人は自己研鑽を行い、これから社会で生きていく生徒たちに必要な力を身に付けさせるため、今までの指導方法を見直すとともに、様々な機器等についても活用できる力を身に付け、上記のような社会でたくましく生きていく力を生徒に付けさせる指導力等の向上に努め、今年度の教育課程を意図的、計画的に推進していかなければなりません。

それでは以下に、上記を行うための具体的な概要を記載するとともに、地域、保護者等に、本校の教育への御理解、御支援をさらにお願いしていくことを含め、今年度の学校経営方針の概要とします。

1 教育目標(令和6年度と変更無し)

《自主・自律》

自ら学び、考え、正しく判断し、進取の気風のもとに、協働し、よりよく、持続可能な社会を築き、未来を切り開いていく生徒の育成を目指す。

自主とは

直面する諸課題に対して、学んだ知識及び取得した技能を活用し、諦めることなく、探求心をもってその最適解を求めていくこと

自律とは

夢や希望を現実のものとするために、社会的規範に従って自己を律すること

2 目指す学校像

- ・学ぶ期待がある学校（分かる喜び）→そのために、基礎基本の定着を図り、指導の工夫（ユニバーサルデザインの視点をもった授業の構築等）を行っていく。
- ・感動と活力のある学校（切磋琢磨、やり遂げた喜び）→一人一人の豊かな自己実現を目指す多様な教育活動（体験学習、学校行事の充実等）を行っていく。
- ・規律正しい学校（自律、忍耐）→授業や生活での規律ある態度の育成し、自己および集団への自信と誇りの涵養を図っていく。

3 目指す生徒

- ・不屈の精神をもって夢の実現に努力する生徒
- ・人権を尊重し、他者を思いやれる心豊かな生徒
- ・進取の気風をもって未来を創る生徒

4 目指す教職員

- ・視野を広くもち、授業力・指導力、情熱・使命感、実行力のある教職員
- ・専門性が高く、主体的、かつ迅速に行動する教職員

職務を行う上で

①法令を順守し、正直で誠実な行動をする。

→一人一人が生徒の見本であることを自覚し、日々行動し、学校の信頼を高める。

②生徒の笑顔を第一に考える。

→子供が充実感、達成感を得られるように最大の努力をする。

→その言動は、生徒の気持ちになって考えたか、生徒の成長につながるのか等を常に考える。

→教師がいつでも“笑顔”を忘れないことで、生徒の最高の笑顔を引きだす。

③感謝の気持ちを常にもつ。

→自分の行動は、周囲の人に感謝の気持ちが伝わるかを考え、真摯に職務を遂行する。

④常に改善・向上を目指す。

→与えられた現状の中で、様々な課題に対し、「どうすればできるか」を考え、行動する。

5 学校経営の重点

・確かな学力の育成に向けて（学習指導等について）

① 全教科において、50分の授業の「ねらい」

を板書等で明確にするとともに、その「ねらい」に対する「振り返り」を授業内で確実に行うことにより、「何が分かったか」「何ができるようになったか」を生徒に自覚させ、自らが新たな課題を見出す等、主体的に学習に取り組ませるとともに、指導と評価の一体化を図る。



② 各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働きかせながら、「主体的・対話的で深い学び（「個別最適な学び」と「協働的な学び」のバランスの良い授業の構築等）」の実現を図っていく。

③各教科の評価は、単元または内容のまとまりごとに行うとともに、そのまとまりごとの評価を総合した評価を算出し、通知表等で評定と共に示す。

④教科の評価は、教科ごとに責任をもって評価方法等を生徒等に説明するとともに、「何が分かったか」「何ができるようになったか」等を生徒が的確に分かるようにする。

⑤「せたがや探究的な学び」をさらに推進し、思考力、判断力、表現力の向上を図る。そのために、学びを深める場面において「様々な考え方を共有することにより、新たな気付きをもたせたり、視野を広げたりする」協働的思考力、「正解や考え方等に対して批判的な考察を行い、論理的で偏りがなく、物事を多面的に、客観的に捉える」批判的思考力、「様々な情報等からその正確さも含め判断し、解決策を追及する」創造的思考力を身に付けさせるために、話し合い等の場面

- において、ねらいを明確にし、そのねらいを生徒に理解させて活動を行わせる。
- ⑥生徒が主語となる授業展開の構築の研究を進める。そのために講師等を招聘した研修等を行う。
- ⑦7月・12月に各教科においてアンケートを実施し、学校評価も含め、個々の教員が客観的に授業の振り返りを行い、授業の工夫、改善を行う。
- ⑧学校全体の教育活動を通じて、一人一台のタブレット端末等の効果的な利活用を推進し、分かりやすい授業の構築及び情報リテラシー等のさらなる向上に努める。
- ⑨タブレット端末は学習を行うための文房具として適切に使用するよう、改めて指導を行っていく。
- ⑩「授業を受ける姿勢」「教室等の環境整備」「授業の開始・終了」等の授業規律については、授業の基礎であり、繰り返し指導等を行い、良好な学習環境を構築する。

・豊かな人間性をもち、多様性を尊重しながら共に学び、共に育つ教育の推進に向けて（生活指導等について）

①【 共感的な人間関係の育成 】

「失敗しても次につなげられる雰囲気が醸成されている」「間違いやできないことを笑わない」「なぜそう思ったのかを共有できる」「どうすればできるようになるかみんなで考えられる」等の人間関係を育成するために、人権教育及び道徳教育等を充実させ、生徒の生活に安心感と落ち着きを定着させ、「健全育成と心の教育」、「デジタル・シティズンシップ教育」等を組織的に推進する。

②【 安全・安心な風土の醸成 】

お互いの個性や多様性を認め合い、安心して授業や学校生活が送れるような風土を醸成するために、教育相談室の充実をはじめ、毎月行う学校独自の生徒アンケート、「ふれあい月間」、「WebQ-U」生活アンケート等を活用するとともに、校内委員会を充実させ、学校全体で生徒の状況を細かく把握し、様々な課題に対応していく。

また、不登校生徒の学校復帰に向けて、ステップルーム（仮称）を整備し、様々な状況にある生徒一人一人に合わせ、学校生活にスマールステップで復帰できるシステムを構築していく。

③【 自己存在感の感受 】

インクルーシブ教育の研究及び特別支援教育等を推進し、特別な配慮を要する生徒や保護者等への対応について、細やかで継続的にスマールステップで行つて行つけるよう、SC、巡回心理士等からの専門的な指導、助言を受けるとともに、校内委員会において組織的に対応していく。また、保護者、関係外部機関等との連携を密にしていく。さらに教員の特別支援教育に関する資質の向上を図り、ユニバーサルデザインの視点をもった授業を研究し、どの生徒にとっても分かりやすい授業を構築していく。

④【 自己決定の場の提供 】

問題行動等があった場合、当該生徒に対し、急いで謝罪の会等をもって終わりとせず、自分のしたことにしっかり向き合う時間を確保し、自ら考え、課題に気付き、課題となった言動等を改善していくことにより、その生徒が成長していくことを支援する指導を、地域、保護者等と連携して行つていく。また、奉仕活動や美化活動等については、その意義を考えさせ、主体的に実践して行つけるよう指導していく。

・キャリア・未来デザイン教育、特色ある教育活動の充実に向けて（進路指導等について）

- ①キャリア・パスポート等を活用し、各学期末に行われる三者面談等で、生徒自身が教員及び保護者等に学んだことプレゼンテーションし、「身に付けたこと」「成長したこと」等をアウトプットするとともに、「これから身に付けていきたいこと」等を明確にし、そのことに対し、主体的に学びに取り組んでいけるよう指導していく。
- ②自己理解、職場訪問、職場体験、上級学校訪問、ボランティア活動等、様々な体験活動を通して、自己の個性を知るとともに、『自分らしい生き方』を実現していくために必要な学習等を考えるキャリアプランニング能力の育成を図り、生徒が主体的に力強く未来を切り開けるよう指導する。
- ③地域・保護者の連携のもと、ゲストティーチャー等を招聘して、地域等を含めたチーム上祖師谷中学校として、組織的に活動していく。
- ④年間2回の面談等で、個々の能力・希望・特質にあった進路指導を行い、個に応じたキャリア形成を推進する。
- ⑤PTA及び外部関係機関と連携を図り、不登校生徒の進路に関する講演会等について、様々な情報を発信するとともに、個々の生徒の状況を踏まえ、スマートステップの目標をもたせたり、ICT機器を活用等による学習支援をしたりすること等を推進していく。
- ⑥昨年度まで行ってきた『平和学習』のさらなる深化のため、人類がこの地球で幸せに暮らし続けるために考え、行動する「SDGs」17目標をテーマとする課題設定に学習活動を再構築し、3年間を通し、一貫して取り組む探求的な学習に挑戦していく。
- ⑦英検、漢検、数検の受検を校内で行える機会を確保し、主体的に学習に取り組む機会を設定する。

・教育DXの推進に向けて

- ①デジタル・シティズンシップ教育を推進し、優れたデジタル区民となるための必要な能力を生徒に身に付けさせ、デジタル社会の担い手として育成する。
- ②「連絡メール」「学校ホームページ」等を積極的に活用し、学校からの情報発信の強化を図る。
- ③不登校生徒等への対応として、ICT機器等を活用し、学習する場所を限定せず、学べる機会の確保等に努める。
- ④ICT機器を効果的、かつ積極的に活用し、教職員の事務作業を効率化、軽減等を行い、結果として生まれる生徒との時間の確保を推進するとともに、地域、保護者等への理解の促進を図る。
- ⑤ICT機器やインターネット環境など、さらなるインフラの整備を推進し、生徒たちが主体的に学習できる環境を整える。
- ⑥対話型生成AI等の活用等、次のステージの授業改善への検討等を行っていく。

・地域社会と協働した教育の推進に向けて

- ①学校運営委員会との連携及び協力を仰ぎながら、学校と地域住民などが力を合わせ、生徒がより良い環境で学習等を行える「地域とともにある学校」を目指す。
- ②地域の教育資源及び外部人材等と連携、かつ活用し、教育課程を円滑な推進及び充実を図る。
- ③地域と教育力と連携・協働することにより、生徒の健全育成の推進及び安全確保等の充実を図る。
- ④9月行われる地域の避難所開設訓練には第一学年全員が参加し、地域の一員として、災害時に活動できる生徒の資質の向上を図っていく。

- ・「学校における働き方改革」の推進に向けて

- ①前例を踏襲せず、校務を精査し、見通しをもって職務を推進し、効率化を図る。
- ②データ等の回覧で共通理解できることについては会議等を行わない。なおその際、個人情報等が含まれる資料等の取扱い等には十分注意し、行っていく。
- ③月一回、会議の日を設定し、その日は4時間授業及び部活動を16時45分までに終了し、教職員が定時退勤できるようにする。
- ④土、日曜日のボランティア活動は、行政、地域、保護者等の協力得て、教職員の負担を減らしても、生徒の活動は確保できるようなシステム等を構築する。

- ・服務事故の防止対策の実施について

- ①教育活動の根幹を揺るがすような服務事故が起きていることを踏まえ、報道等されているすべての服務事故を自分事として捉え、法令を遵守し、一人一人が「これくらいは…」等の意識を徹底的に無くす。
- ②定期的な服務事故防止の研修及び点検を実施する。
- ③複数によるチェック、個人情報の適切な管理及び保管、記録の徹底、机上整理等、日頃より服務事故が起こらない体制をとり、学年主任等を中心に互いに声かけ等を行う。
- ④個人情報について、管理の徹底を行うとともに、鍵のかかる場所で保管、管理を行う。

- ・学校事務及び学校給食等の円滑な運営について

- ①事務主事を中心に、円滑な学校運営、教育活動の推進のための環境整備を行う。
- ②栄養士を中心に、給食を調理する業者等と連携を密にし、安全、かつ生徒が楽しみにする給食業務を円滑に行う。なお、食物アレルギー及び異物混入等については、学校全体で組織的に対応する。
- ③学校事務関係の情報等について、管理職等への報告・連絡・相談を密に行い、情報の共有を円滑に行うとともに、組織的に職務を推進する。
- ④給食運営関係の情報等について、管理職等への報告・連絡・相談を密に行い、情報の共有を円滑に行うとともに、組織的に職務を推進する。
- ⑤予算、財務マネジメントを推進し、教育効果を高める予算執行体制の整備を図る。
- ⑥私費会計等について、事務主事と教員と連携を図り、ダブルチェック等を行い、執行状況の管理をするとともに、適正に予算の執行を行う。
- ⑦生徒が安心・安全に学校生活ができるよう施設の保全と備品の管理を徹底する。

